

深化する人口縮小社会の諸課題
- コロナ・パンデミックを超えて

コロナ禍から学ぶ 人口問題の深層

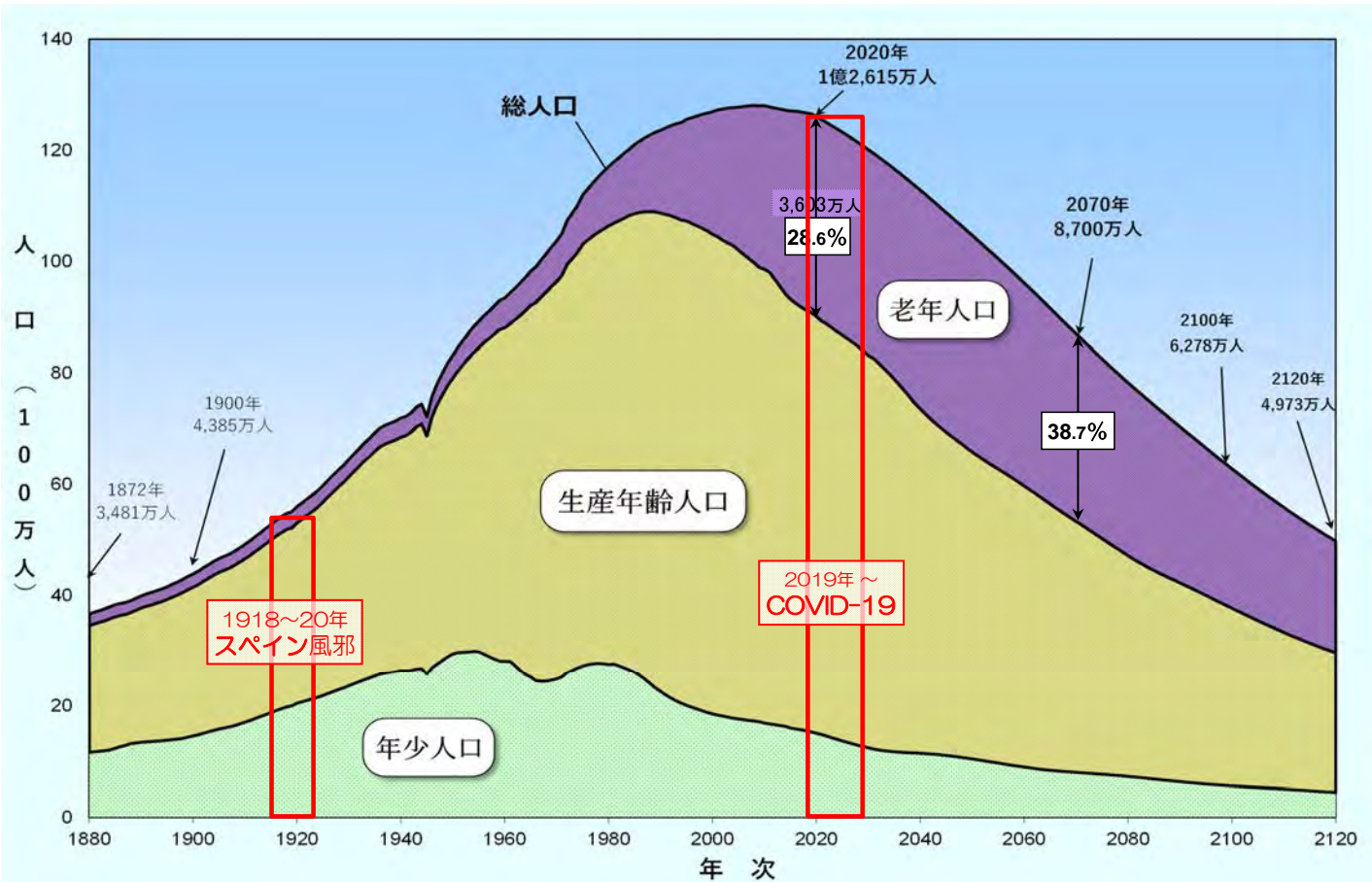
金子 隆一

明治大学 政経学部

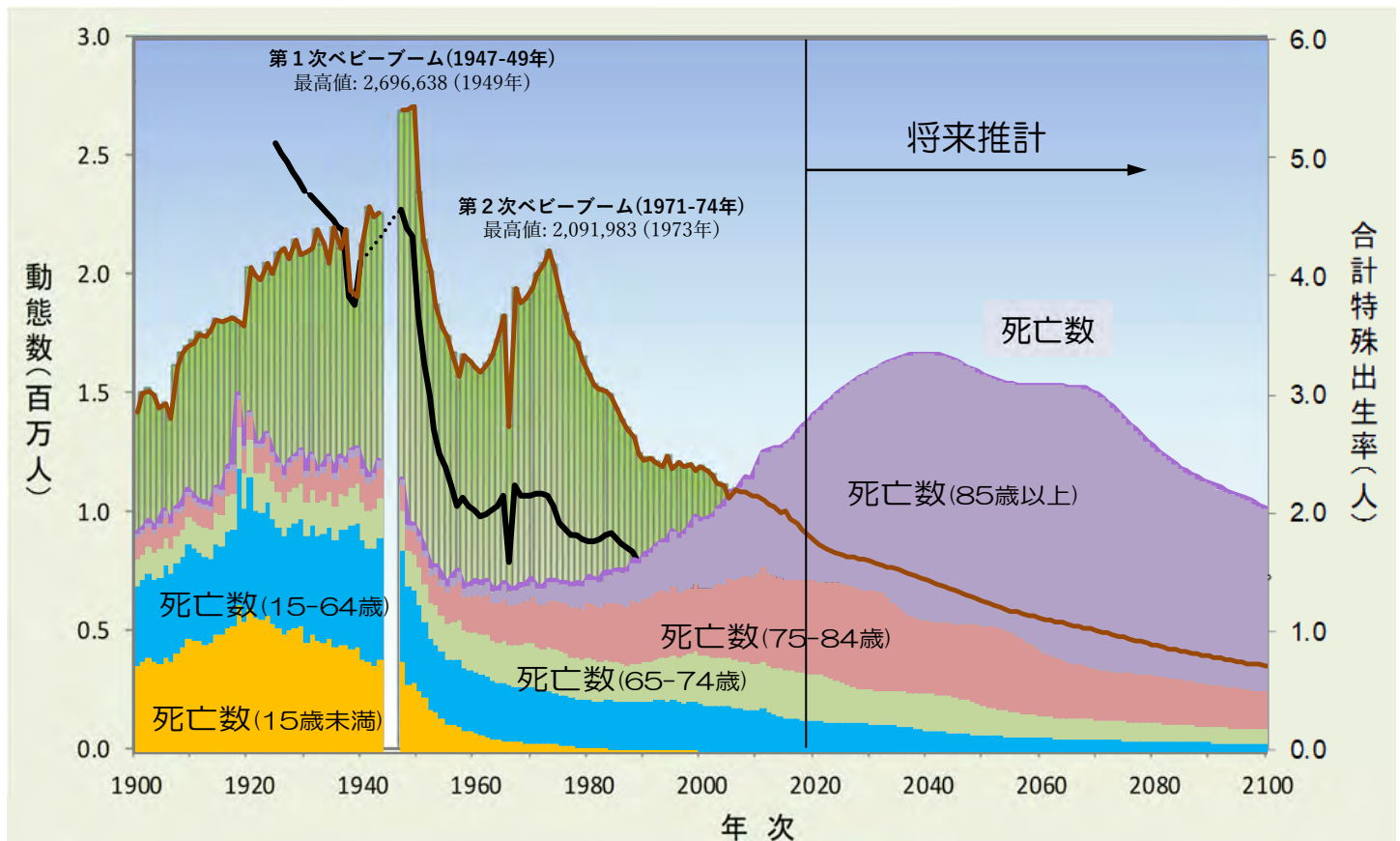


国立社会保障・人口問題研究所
National Institute of Population and Social Security Research

日本の人口と年齢構成の推移：明治期～21世紀～2115年



出生数、死亡数の長期推移（実績＋将来推計）：1900～2100年



注：1900～2018年は厚生労働省「人口動態統計」（客体は日本における日本人の事案）による実績値。2019～2100年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」出生中位・死亡中位推計による同客体における件数の将来推計値。

出生・死亡の基礎的動向

(1) 出生率は“安定”でも、少子化が進行

- ・ 今後は構造要因（親世代人口の減少）による少子化が進む。
- ・ 縮小世代がより小さな世代を生む 縮小再生産サイクル が開始された。

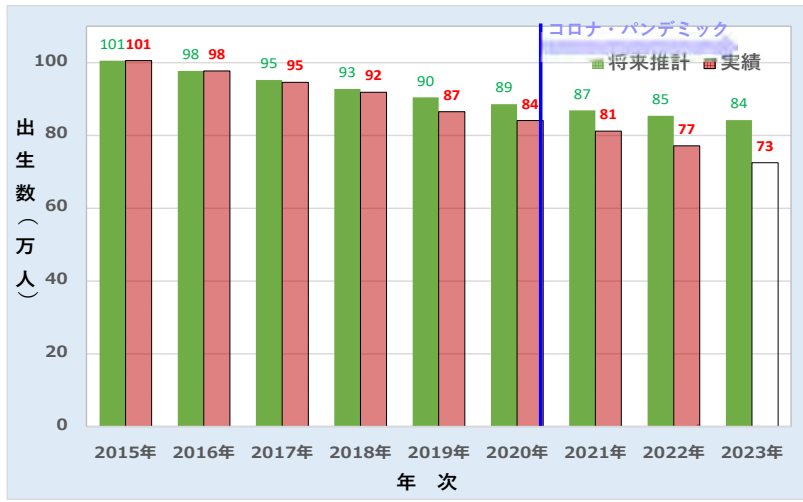
少子化スパイラルの開始

(2) 平均寿命は世界トップでも、多死社会が進展

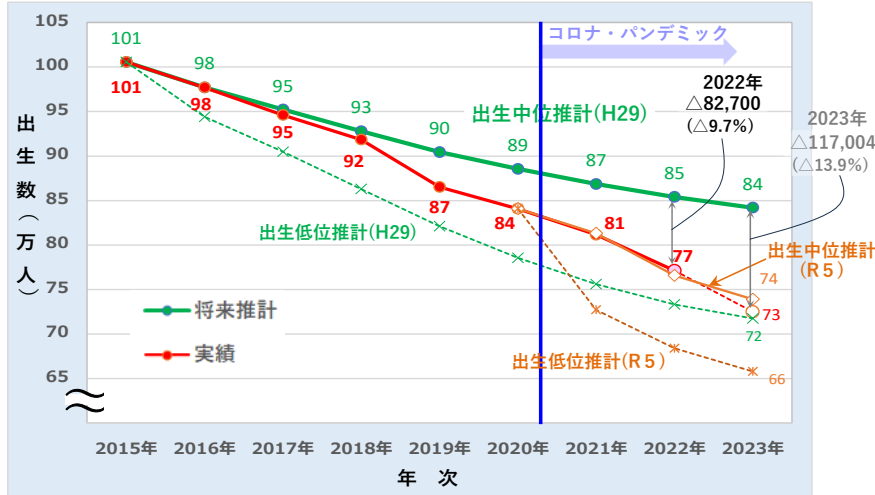
- ・ 現在、年間死亡数は毎年増加中。2040年前後に160万人台に向けて、今後も急速な増加が続く。
- ・ とりわけ 85歳以上の 超高齢層での死亡数増加 が著しく、2040年前後には 2010年の 約 2.4倍となる。

終末期介護・医療の需要が急増

出生数の将来推計値と実績の比較



出生数のコロナ禍以前の見通しと実績の比較
2015～2023年



出生数のコロナ禍以前の
見通しからの乖離 (拡大図)

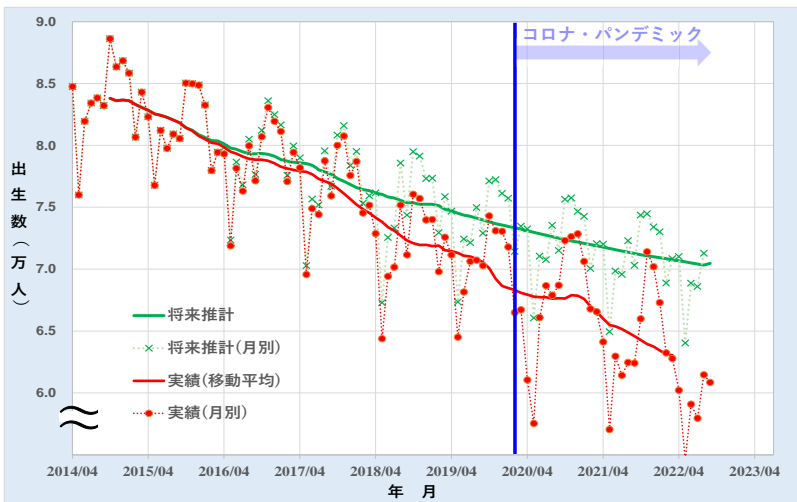
注：実績値：厚生労働省「人口動態統計」（客体は日本における日本人の事案）による。

将来推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生中位・死亡中位推計による同客体における数。

2023（令和5）年出生数は、5月までの速報・概数を用いて年間出生数を推計したもの。

（参考）出生低位推計 2023年出生数：722,614
（「人口動態統計」と同客体における数）

出生数の将来推計値と実績の比較：月別推移、妊娠時期にプロット



月別出生数のコロナ禍以前の
見通しと実績の比較

妊娠時期にプロット
2014年4月～2022年8月の妊娠



月別出生数のコロナ禍以前の
見通しと実績の差

注：実績値：厚生労働省「人口動態統計」（客体は日本における日本人の事案）による。

将来推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生中位・死亡中位推計による同客体における年間出生数を月別に再推計。

2023（令和5）年出生数は、5月までの速報・概数を用いて年間出生数を推計したもの。

新型コロナの影響と見通し

(1) 出生数

動向

- ・ コロナ禍以前の2019年から出生数に想定以上に低下が見られた（想定から4%減）。この出生減は、2018年4月以降の妊娠減に対応する。
- ・ 2020年4～5月の緊急事態宣言下において、妊娠数が減った結果、2021年1～2月の出生数が減少した（1月は想定から16.7%減）。
- ・ その後、緊急事態宣言前の水準に戻ったが、2021年4月以降の妊娠（2022年1月以降の出生）が再び減少した（想定から約10%減の水準）。
- ・ コロナ禍以前の想定からの乖離幅は、未だに拡大を続けている。



コロナ禍以前から見られた減少傾向と、コロナ禍による減少が重なり、2022～23年は大幅に出生数が減少（想定から10～14%減）。

これが長期的に定着なら、少子化は深刻な領域へ！

新型コロナの影響と見通し — 少子化加速の懸念 —

- コロナ禍による出生数の一時的減少 → リバウンドは限定的
- コロナ禍の中期的影響
→ 結婚・子育て年齢層での失業や低所得化などによる生活困窮、出会い減少など

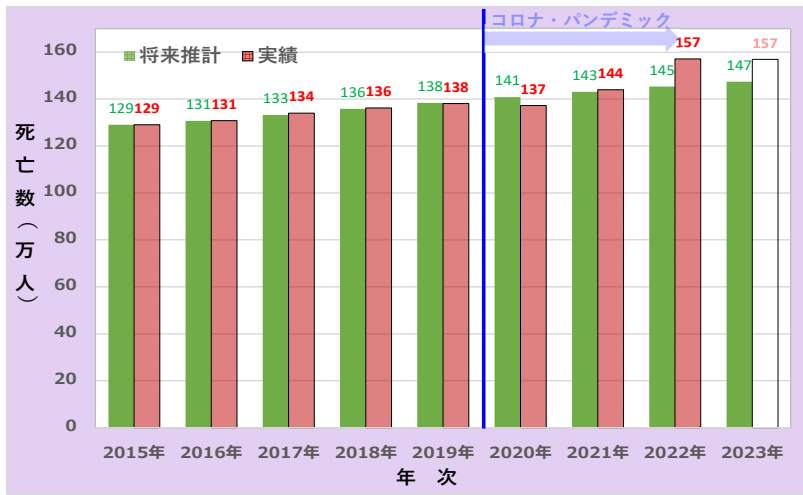
↓
出生数の減少

「低出生の罌」と呼ばれるメカニズム

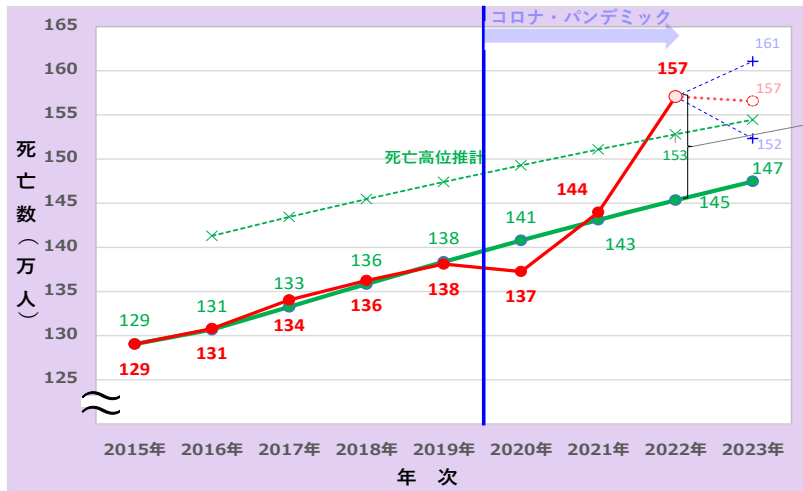
- ・ **出産・子育て関連の市場の縮小**
→ 市場原理による子ども・子育て世代向け**製品・サービスの劣化・価格上昇**／投資低下
→ **産科・小児科**の経営困難、後継減少
- ・ **子育て支援ニーズの量的縮小**
→ 民間企業の子育て支援の弱体化
→ 行政における**施策・施設予算の削減**
- ・ **少子化マインドの広がり**
・ 子どもは持ちにくい／簡単には持たない方がいいという意識

↓
新たな低出生率水準の定着に向かっている！

死亡数の将来推計値と実績の比較



死亡数の見通しと実績の比較 2015～2023年



乖離の拡大図

2022年
+117,199
(+8.1%)

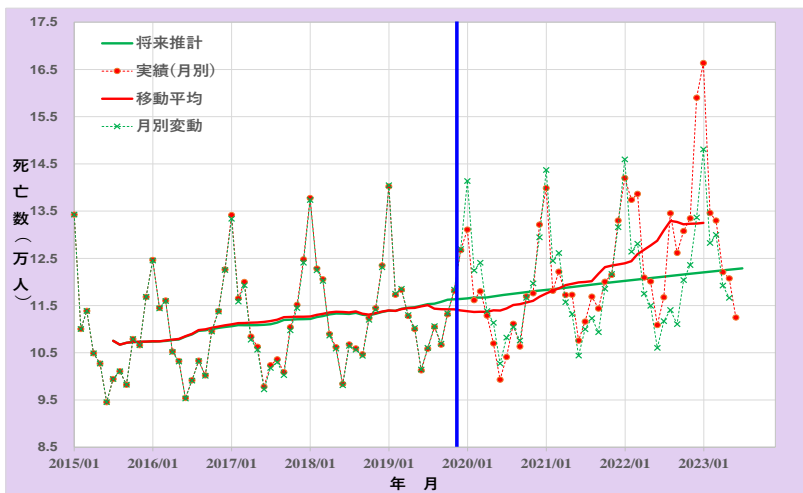
注：実績値：厚生労働省「人口動態統計」（客体は日本における日本人の事案）による。

将来推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」出生中位・死亡中位推計による同客体における数。

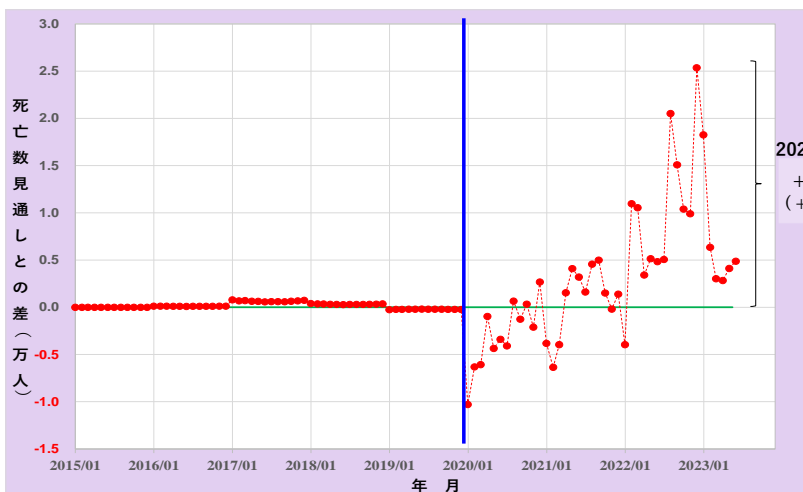
2023(令和5)年死亡数は、5月までの速報・概数を用いて年間出生数を推計したもの(推計値：1,521,459)。

(参考)死亡高位推計 2022年死亡数：1,569,314
(「人口動態統計」と同客体における数)

死亡数の将来推計値と実績の比較



死亡数の見通しと実績の比較 2015～2022年



乖離の拡大図

2022年/12月
+25,344
(+20.8%)

注：実績値：厚生労働省「人口動態統計」（客体は日本における日本人の事案）による。

将来推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」出生中位・死亡中位推計による同客体における数。

2022(令和4)年死亡数は、6月までの速報・概数を用いて年間出生数を推計したもの(推計値：1,521,459)。

(参考)死亡高位推計 2022年死亡数：1,528,189
(「人口動態統計」と同客体における数)

新型コロナの影響と見通し

(2) 死亡数

動向

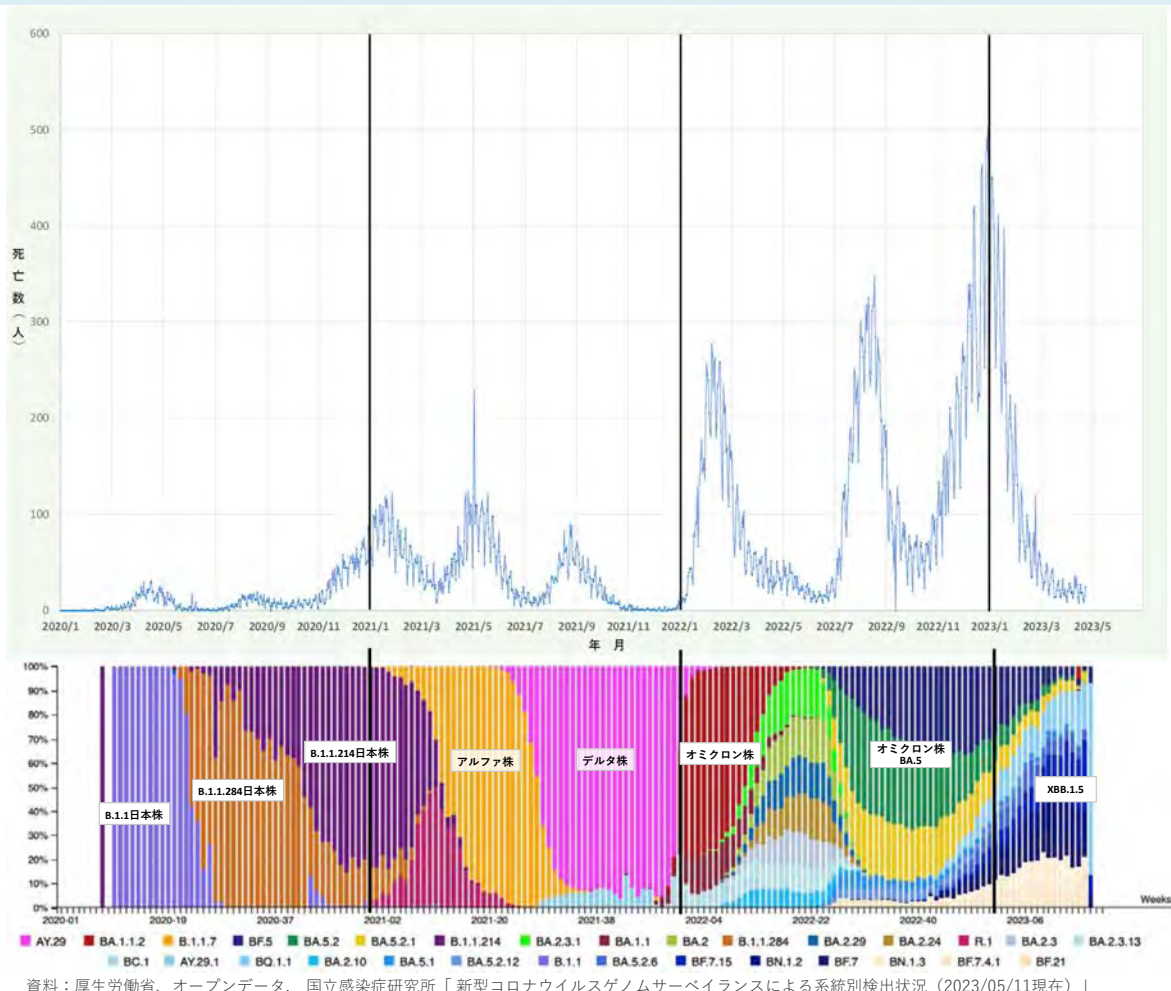
- ・新型コロナは、2020年当初においては、感染予防策の展開によりインフルエンザなど他の呼吸器感染症が抑制されたことから、年間の死亡総数を減らす結果となった。
- ・しかし21年にはその反動も含めて、従来の多死社会に向かう傾向にもどり、22年は従来の想定を超えて（高位推計を超えて）増加した。
- ・22年の超過死亡は約11.7万人(8.1%)となり、23年も超過が続くと見られるが、乖離の拡大は終息に向かっており、従来の傾向に戻りつつある。



22～23年超過死亡が続いているが、終息に向いつつある。ただ、新たな変異株や他の感染症による超過死亡再拡大に要注意（高齢化による脆弱性が判明）。また単に戻ればよいのではなく、年間8%を超す超過死亡の犠牲者を出したことを忘れるべきではない

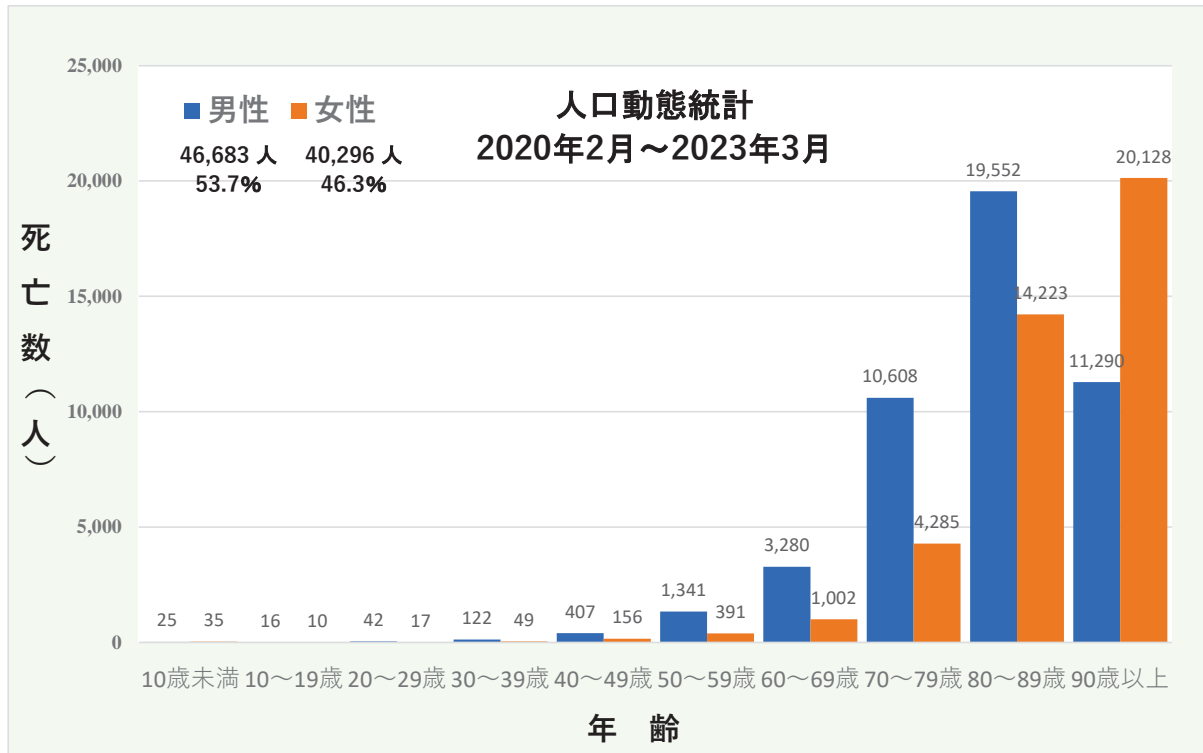
11

日別死亡数推移と新型コロナウイルスの変異株の変遷



12

男女、年齢階層別死亡数の分布



注：2020年2月～2023年3月の死亡者で年齢がわかるケース（86,979人）について。
資料：厚生労働省「人口動態統計」保管第6表より。

コロナパンデミックから学んだこと、学ぶべきこと

経済社会システムと命のシステムの対立 **経済活動 vs. 感染予防**

経済社会のシステム

平時のシステム

日々の生活を営み、より豊かな生活を求めるためのしくみ

市場システム

新自由主義経済

グローバル化（国際競争激化）

格差拡大（国民の分断）

金融手動（マネーゲーム）

若年向け市場縮小（生活の質の劣化）

犯罪ビジネスの横行（闇バイト）

民主システム

財政規律（財政的児童虐待）

シルバー民主主義（世代間不公平）

権威主義の台頭

活動原理

原動力＝欲望
無限世界の前提

競争と拡大と
効率の原理

現象

成長戦略不在・機能不全（失われた30年）
賃金の長期停滞／円安・物価高騰
財政規律の弛緩
経済の国際的地位の喪失、...

VS

命のシステム

有事のシステム

限られた生命（いのち）を守り、つなぐためのしくみ

とくに 命を脅かす事態、各種「災害」に
対抗するしくみである

外因による災害

自然災害（地震・津波・森林火災 ...）

疫病（新型コロナパンデミック、鳥インフル ...）

内因による災害

環境破壊（地球温暖化、待機・海洋・土壌汚染 ...）

戦争・紛争・テロ（ウクライナ、パレスチナ、ミャンマー ...）

核兵器（広島・長崎、ウクライナ危機、北朝鮮 ...）

原子力災害（チェルノブール、福島第二 **ジャポリージャ**）

人口災害（少子化、高齢化、地方消滅 ...） ←

介護難民／中国農村部での高齢者の日常的自殺

活動原理

原動力＝生命の確保・再生産
有限世界の現実

合協
調の
原支
理え

現象

繰り返す医療逼迫・医療崩壊
社会技術の立ち遅れ（DX、マイナ ...）
研究開発投資の削減・縮小
人への支出（人件費・投資）抑制
資金の長期停滞、非正規雇用拡大、
ブラック企業、ワーキングプア、子どもの貧困、...

★ 本来人間社会では、この二つのシステムが協働しなければならない。しかし、コロナパンデミックにより、日本社会では**命のシステム**が、**不均衡に弱**くなった。

★ **結婚・妊娠・出産・子育て**は、**命のシステム**の領域にある。

人口減少・高齢化・地方衰退をもたらしている**少子化**は、この領域のしくみの弱さに起因して生じている。

★ **人口問題は緩慢だが最大の災害である**

★ 長期的には**経済社会のシステム**も**命のシステム**に依存している。

経済社会システムに集中的に注力すれば、一時的な競争には有利だが、**長期的には後退する**。

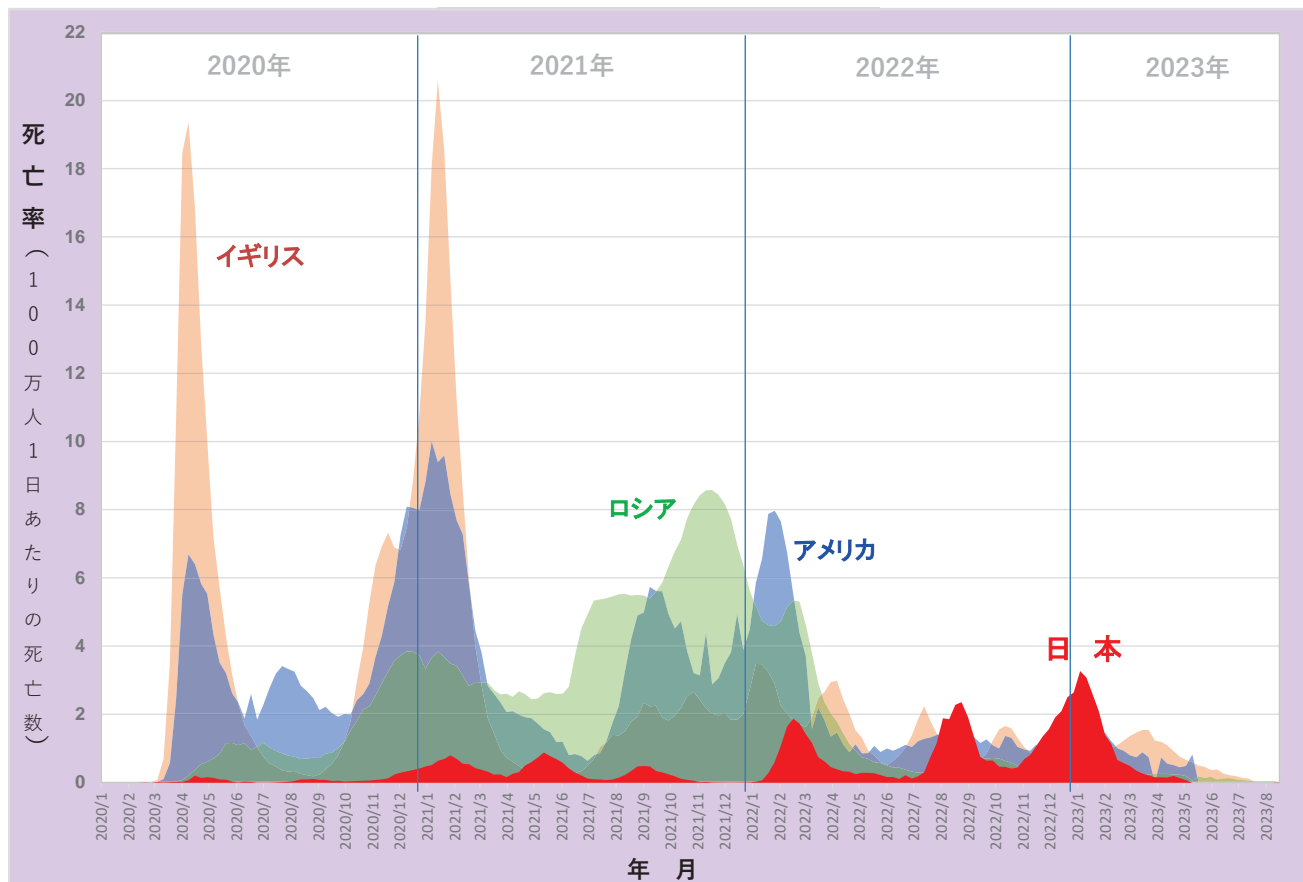
経済社会システムへの偏重を是正し、命のシステムの意義を真剣に問い直すことが、日本・地域社会が持続的発展を回復する出発点である。

【参考資料】

世界における コロナパンデミックの影響

15

週別死亡率の国際比較

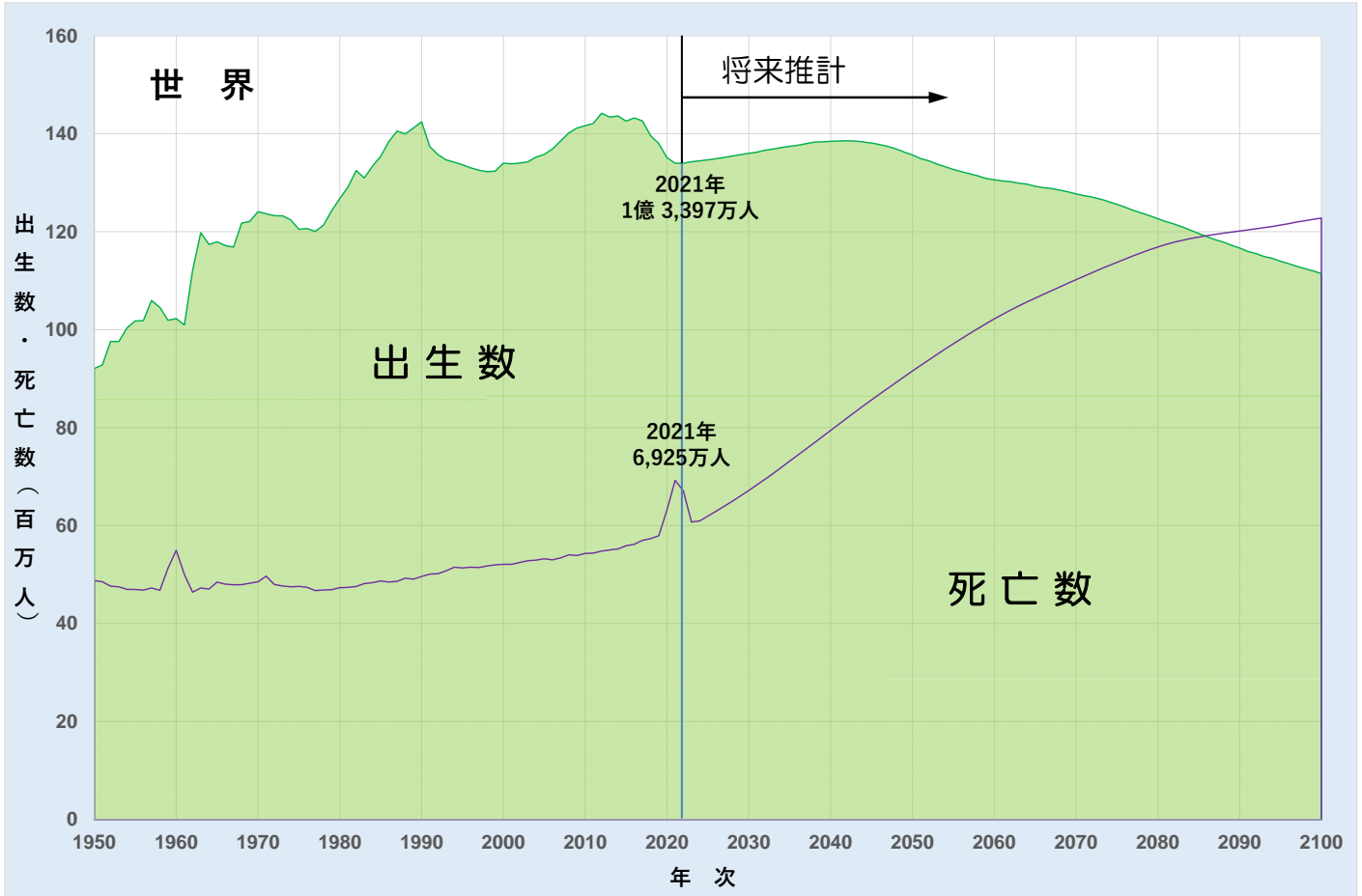


資料：札幌医科大学医学部 附属フロンティア医学研究所、Interactive Web-based Graphs of Coronavirus Disease 2019 Cases and Deaths per Population by Country.

16

世界の出生数・死亡数の推移：世界も多死社会へ

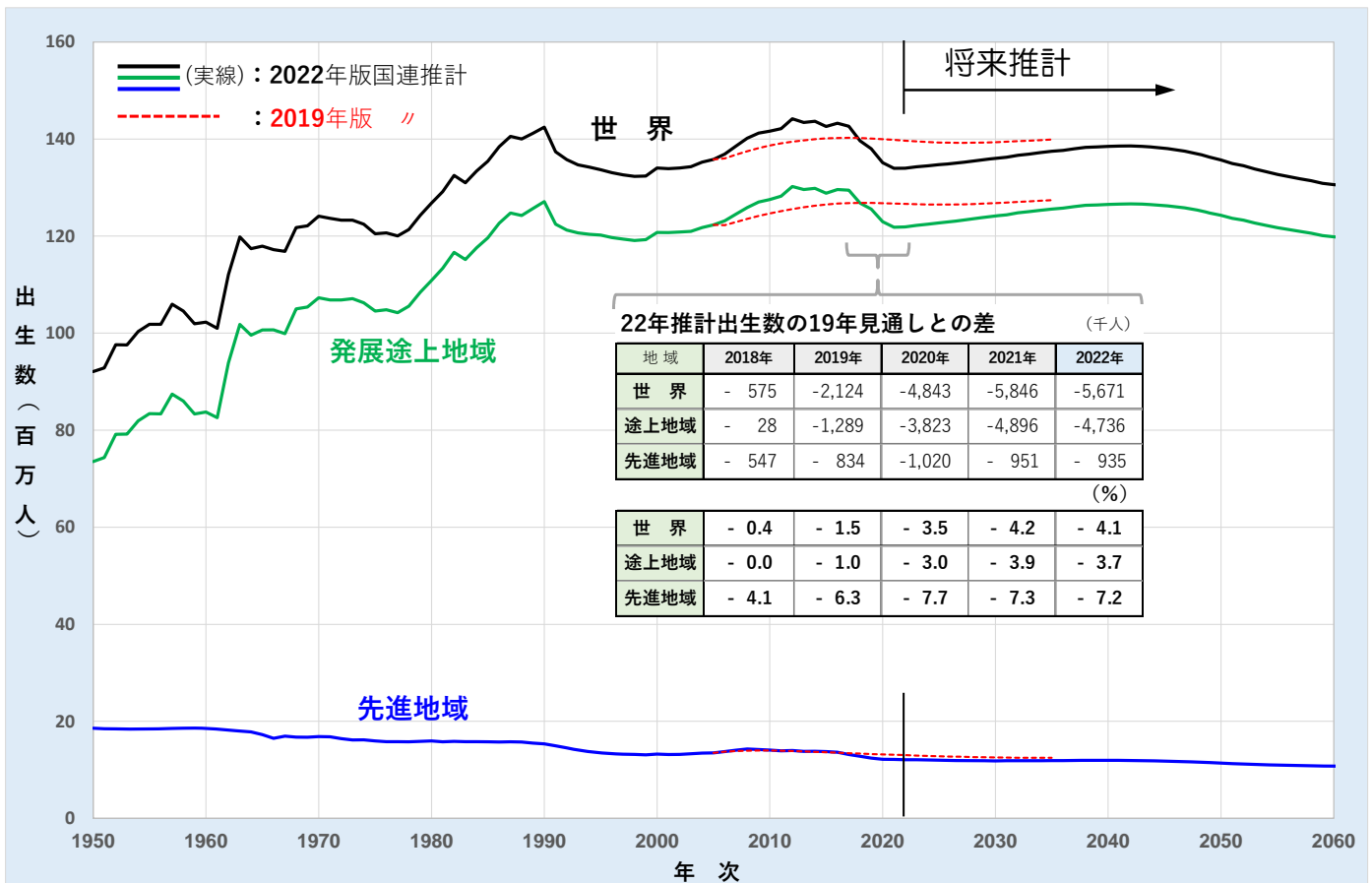
年間出生数・死亡数の長期推移（実績＋将来推計）：1950～2100年



資料：United Nations (2022), World Population Prospects: The 2022 Revision.

世界の出生数の推移：コロナ・パンデミック以前の見通しと、22年推計

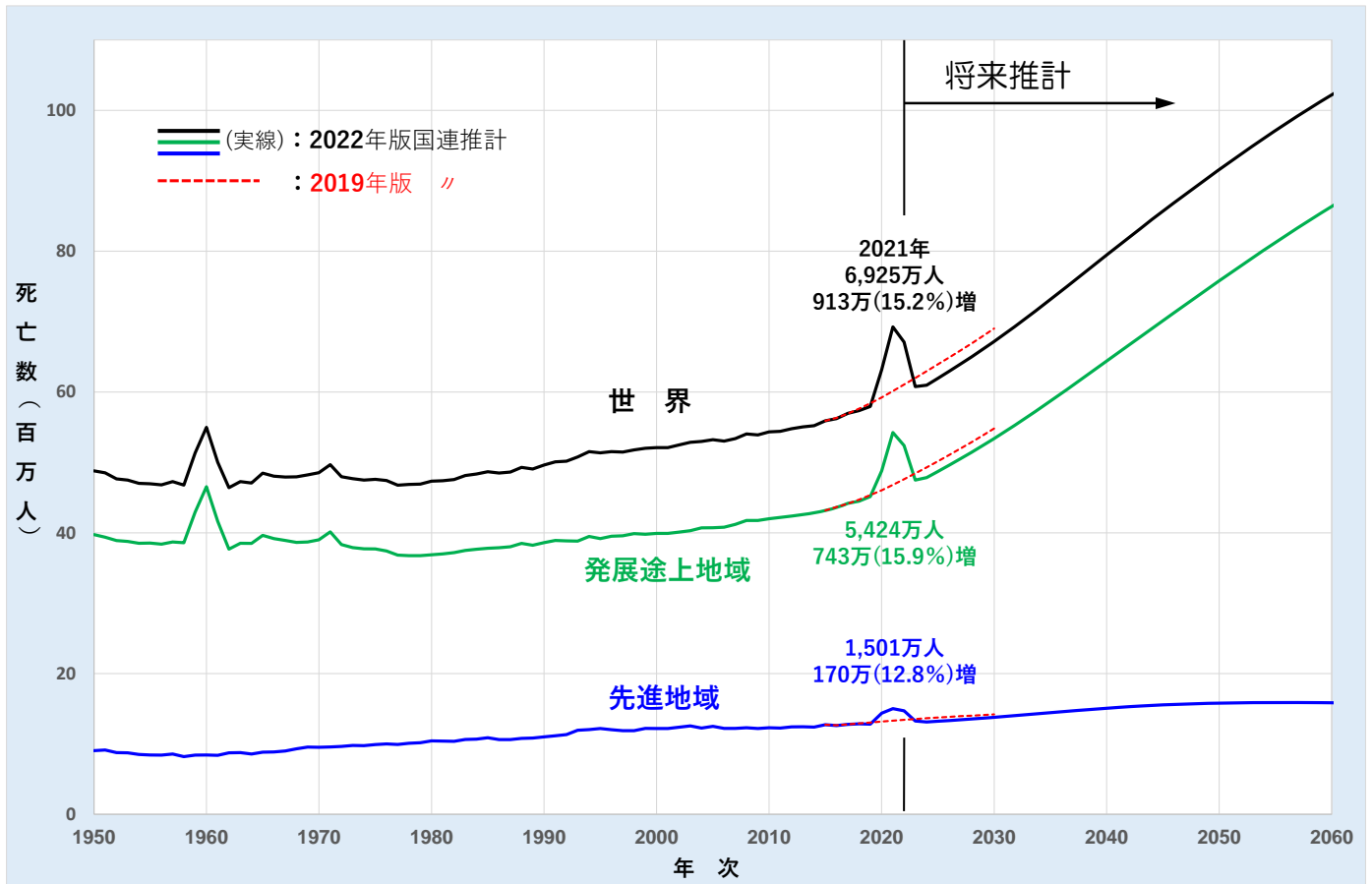
年間出生数の長期推移（実績＋将来推計）：1950～2060年



資料：United Nations (2022), World Population Prospects: The 2022 Revision, および、The 2019 Revision.

世界の死亡数の推移：コロナ・パンデミック以前の見通しと、22年推計

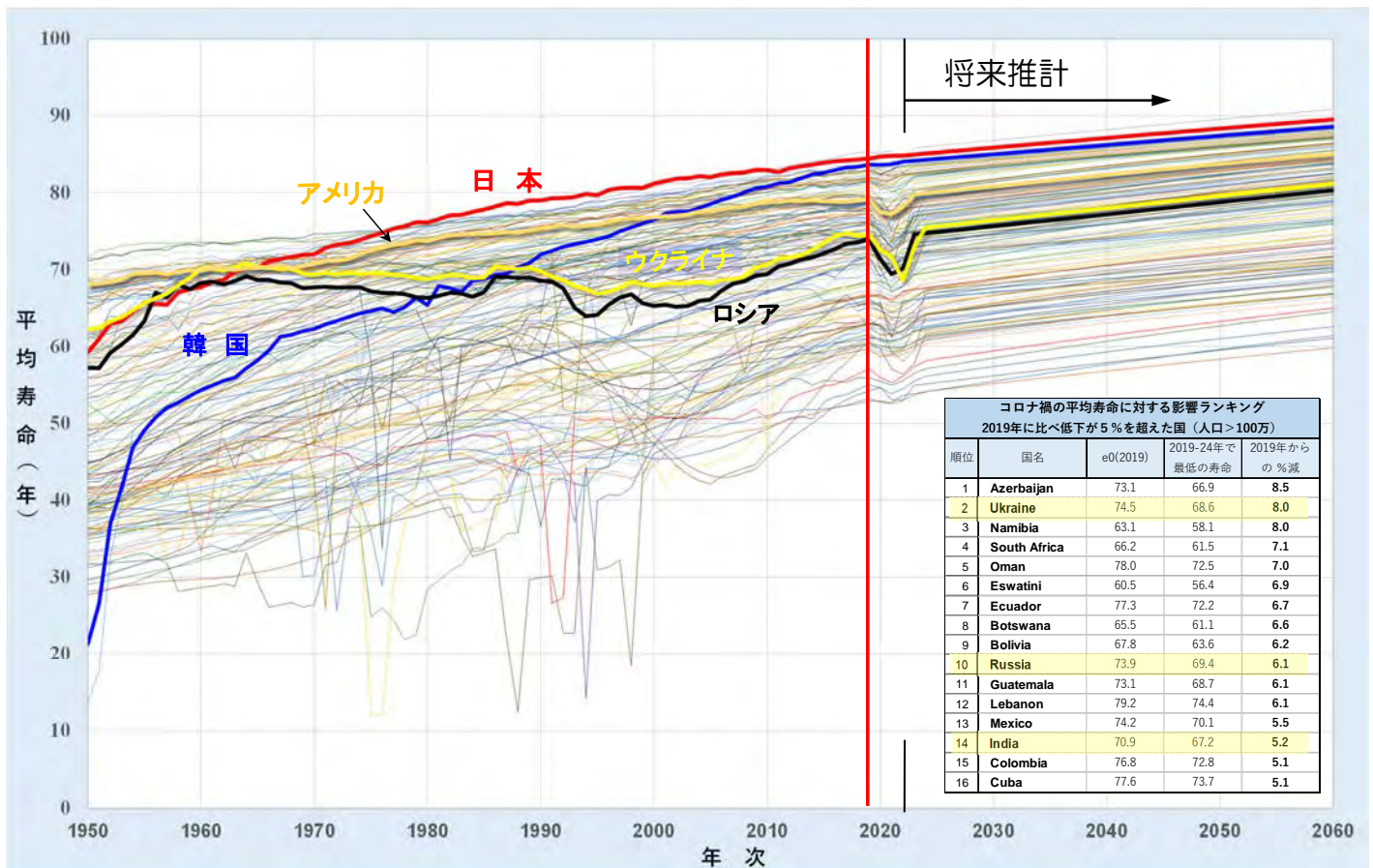
年間死亡数の長期推移（実績+将来推計）：1950～2060年



資料：United Nations (2022), *World Population Prospects: The 2022 Revision*, および、*The 2019 Revision*.

世界の平均寿命の推移：コロナ・パンデミックによる死亡率の一時的な高騰

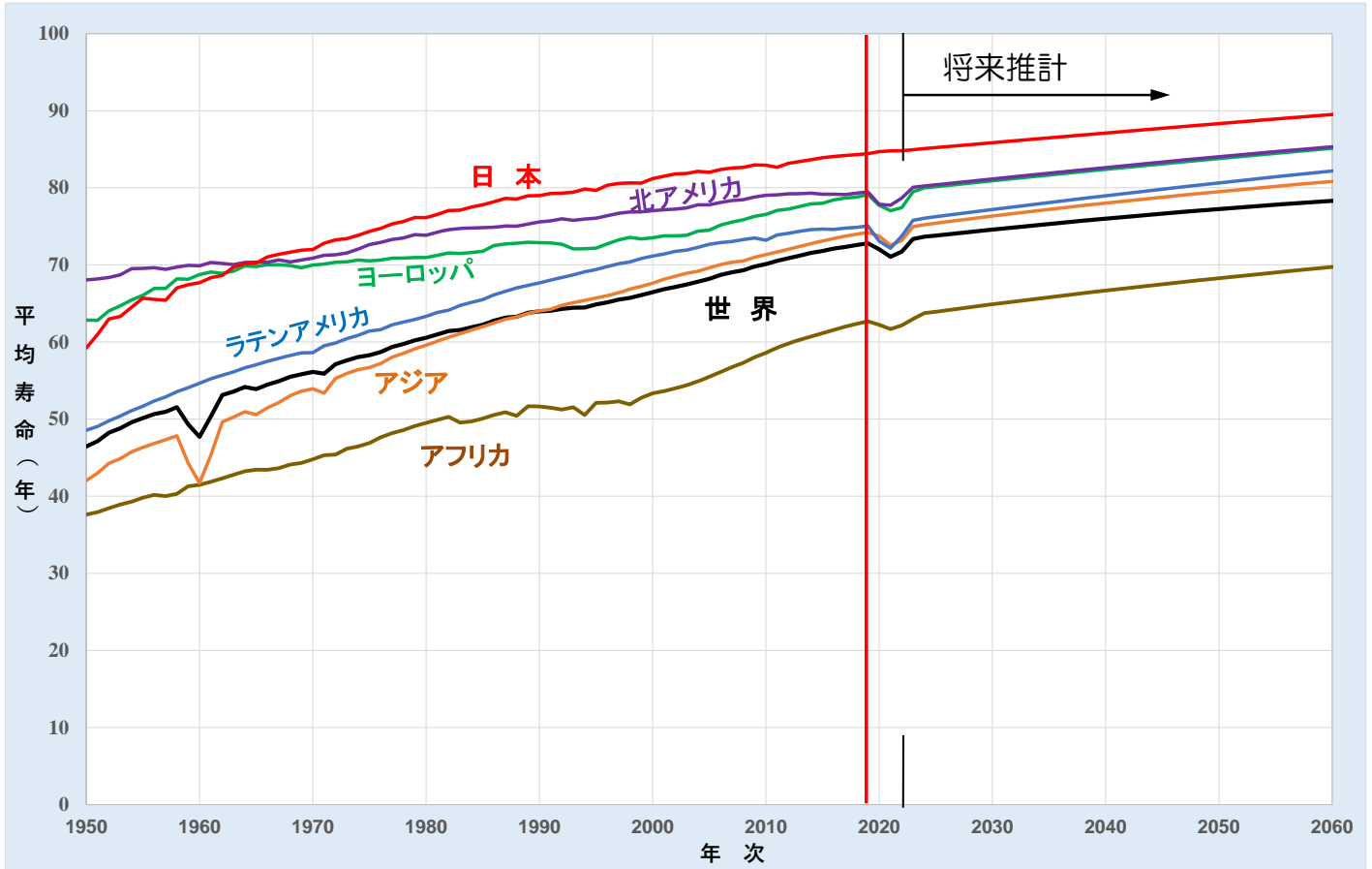
平均寿命（男女総数）の長期推移（実績+将来推計）：1950～2060年



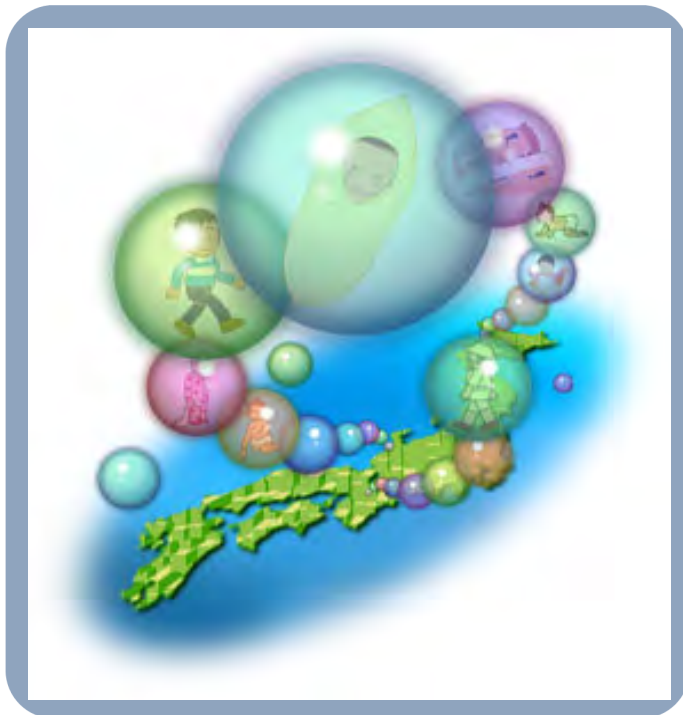
資料：United Nations (2022), *World Population Prospects: The 2022 Revision*.

世界の平均寿命の推移：コロナ・パンデミックによる死亡率の一時的な高騰

平均寿命（男女総数）の長期推移（実績+将来推計）：1950～2060年



資料：United Nations (2022), *World Population Prospects: The 2022 Revision*.



日本学術会議主催 学術フォーラム
人口縮小社会における問題解決のための検討委員会
2023年 8月 30日 (水)

日本学術会議主催 学術フォーラム
人口縮小社会における問題解決のための検討委員会
2023年 8月 30日 (水)

深化する人口縮小社会の諸課題
- コロナ・パンデミックを超えて？

コロナ禍から学ぶ
人口問題の深層

明治大学 政治経済学部
金子隆一